令和７年度　江戸川区立鹿本小学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	◎考える子　○やさしい子　○たくましい子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	目指す学校 「６年生があこがれの存在である学校」 ・一人一人のよさをのばし, 人としての基礎をつくる。　・子供を育てる情熱と向上心をもった人 （教員 をつくる） ・地域のコミュニティとしての機能を果たし、地域発展の核となる。　・夢をもち, 夢をはぐくみ 、夢を伝え合う。
前年度までの本校の現状	成果	・全国学力調査や定着度調査等の結果を分析して児童の課題を把握し、改善に努めたことで、少しずつ基礎・基本が身に付いてきた。 ・学習規律や生活指導において、全教職員が共通した指導を行うことで、学校全体が落ち着き、集中して学習に取り組めるようになってきた。	課題	○基礎的・基本的な学力が定着していない児童がまだまだ多く見られる。意欲をもって粘り強く課題に取り組む態度を育てることが課題である。 ○個別に対応しなければならない児童が多く在籍しており、それぞれの児童にどのように対応していくかを考える必要がある。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価(A～D)		「中間」 学校関係者評価(A～D)		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	○基礎的・基本的な確かな学力の定着	○週１回の朝学習タイムを「チャレスタ」として全校で取り組み、ミライシード、東京ベーシック・ドリルに取り組ませ、学習カルテで進捗を確認し、基礎・基本の定着を図る。 ○算数授業スタンダードの徹底。 ○水曜日４時間授業 終了後 １５ 分間を基礎学力定着の時間に設定する。【マスターパンピ】 ○学力調査分析を基に、全学年で取り組む学力向上の重点を絞ってプランを作成し、校内ＯＪＴで理解を深め、重点を日々の授業に反映させる。	○チャレスタを年間35回以上実施する。 ○算数授業スタンダードに基づいた授業を教員の100%が実施する。 ○マスターパンピを年間で１３回実施する。 ○10月までに授業改善プランを作成する。											
	○読書科の更なる充実	○資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と１単位時間の授業との関連付け、他教科との関連付け等を行っていく。	○年間35時間の読書科の授業時間を確実に確保する。											
	○授業改善	○学校としての自己点検や自己評価を行い、積極的に改善を図っていく。 ○授業改善推進プランや校内研修を活用し、「わかる授業」「楽しい授業」の実現を図る。	○全国学力・学習状況調査の結果を基に10月までに授業改善推進プランを作成する。											
体力向上	○運動意欲や基礎体力の向上	○ランランタイム（登校時校庭３周ジョギング）の全校児童一斉実施する。 ○江戸川っ子なわ跳びチャレンジウィークを推進する。	○ランランタイムの参加率95%以上を目指す。 ○江戸川っ子なわ跳びチャレンジで目標を達成する児童の割合を２０%増加させる。											
		○週１回のクラス遊びを通して、体力向上のきっかけをつくる。担任が運動遊びに関わることで、昼休の休み時間の過ごし方を見直すとともに、集団で遊ぶ経験を積ませる。	○クラス遊びを年間30回以上実施する。											
共生社会の実現に向けた教育の推進	○学びのユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	○巡回指導教員、特別支援教室専門員との連携を密にし、該当児童の指導改善に努めるとともに学びのユニバーサルデザインについて理解を深め、各学級での実施を推進する。	○各学級で児童の実態を把握し、学びのユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習に１学期から必ず取り組む。											
	○異校種間交流の実施・充実	○都立鹿本学園との交流活動を充実させる、	○都立鹿本学園との交流を学期に1回行う。											
	○地域の自然や人材を活用した教育活動の実施	○保護者によ るボランティア、学校応援団を中心とした地域ボランティア等の組織・計画を整備、学校を支える支援体制を確立する。	○学習ボランティアが入る授業を各クラス学期に1回以上設定する。											
不登校・いじめ対応の充実	○一人一人 のよさをのばし,人としての基礎をつくる	○人権尊重の精神に基づき、いじめのない学級、学校をつくり、 子供 全員が毎日楽しく安心して 登校 できる学校をつくる。	○いじめに関する実態調査を基に、学級指導や道徳の授業でいじめに関する学習を学期に1度は行う。											
	○L-Gateの活用	○毎日下校前にL・Gateを実施して児童の様子を見とり、課題の早期発見、対応に努める。	○L・Gateを実施し、学級経営に生かす。											
	○いじめのない学校を目指す	○６月、１１月、２月にいじめ調査を実施して未然防止を図るとともに、案件は継続対応する。 ○いじめが発生した場合には、いじめ防止基本方針に基づき直ちにいじめ防止校内委員会を発足させて早期対応に当たる。	○年3回のいじめ調査を行い、いじめ案件の100%の解決を目指す。											
地域社会に開かれた学校（園）の実現	○地域のコミュニティとしての機能を果たし、地域発展の核となる学校	○児童の健全育成に向けて保護者、地域の参画を促し、学校の教育活動と目的を共有し、学校・家庭・地域の連携を図る。	○毎学期の学校公開や学校行事への参画を促し、教育活動の理解を深めるられるようにする。											
	○学校関係者評価の充実	○学校評議員会を年3回実施し、教育課程に対する意見をいただき、地域に開かれた学校づくりを行う。	○学校評議委員会を学期に1回開催し、その都度、学校の教育活動に関する意見をいただく。											
	○学校（園）ホームページの充実等	○学校行事や保護者会、学校公開、定期的に発行する諸通信、 ホームページ 等、教育の成果を積極的に公開し、教育活動に対する理解と協力を得る。	○全学年がホームページのトピックを月に3回更新する。											
特色ある教育の展開	○「学校における働き方改革プラン」	○定時退勤日を週に1回水曜日に設定し、水曜日に定時退勤できない職員に対しては別日に定時退勤するように促す。	○月の時間外勤務時間40時間以内を目指す。また、定時退勤日は定時退勤の教員の割合80%を目指す。											
	○教員研修の実施	○学年組織、分掌組織及び運営を工夫し、ＯＪＴを通じた育成に努める。 ○ライフワーク、職歴、経験等に応じた研修に努め、教育職員としての自己実現をめざす。	○全教員年２回の授業観察及び指導助言を行う。											
	○姉妹校との交流	○朝霞第三小学校との交流を充実させる。	○朝霞市立朝霞第三小（５年生） 各学期１回実施する。											